



## TRINITY INC.

1-17-11 Kitamae, Chatan-cho, Okinawa 904-0117  
phone 098.936.8312 / 090.1428.9185  
website [www.trinityinc.jp](http://www.trinityinc.jp) e-mail [h@trinityinc.jp](mailto:h@trinityinc.jp)

普段より大変お世話になっている皆様：

拝啓。春粧の候、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日本は4月を年度始めとする世界でも稀な国ですが、自然の息吹を強く感じるこの季節に、社会の暦も新たになる我が国の制度を私は大変気に入っています。

さて、私事で恐縮なのですが、この度学校法人沖縄大学理事会におきまして、人文学部専任教員（准教授）に選定され、4月1日より観光学の教鞭をとる運びとなりました。ここに謹んでご報告申し上げます。また、トリニティ株式会社代表取締役社長としての業務はこれまで通り継続し、特に、沖縄の将来に絶対欠かすことができない南西航空の再生プロジェクト（<http://www.trinityinc.jp/updated/?p=3145>）と地域再生事業はどこまでも追求して行く所存です。

私と沖縄とのご縁は今年で8年となります。私が理解する沖縄社会は、見かけと全く異なる深さを持ち、多くの矛盾に苦しみながら、世界のどの地域にもない潜在力を有する本当に稀な場所。また、社会的、経済的、事業的に日本で最も難しい地域でもあります。復帰以来40年、沖縄で「成功した」といえる本土人が殆ど存在しない社会で、地縁の全くない私が少しでも意味のある役割を果たそうと思えば、単に「精一杯努力する」という程度では論外。自分の退路を断ち、沖縄に生涯を懸けてはじめて、生まれる意義があると考えました。

私が沖縄を生涯の地と定めたもう一つの理由は、沖縄こそが次世代社会で最も重要なものを生み出す場所だと確信しているからです。本土との比較で沖縄を捉えるのではなく、この地を発想の基点として世の中すべてを再解釈してみると、私たちがこれからすべきことが明らかになってくるような気がするのです。このように自分の心をこの地に定めたことにより、沖縄と自分との深い繋がりを発見することになりました。

また、ごく最近まで意識したことすらありませんでしたが、私の樋口姓は「愛の兜」で知られる直江兼続（樋口与六）の末裔です。私が子供の頃、米沢藩上杉家の菩提寺（東京都港区白金の興禅寺）に墓参りに行く度に、樋口家の隣にある上杉茂憲（もちのり）公の大きなお墓を、意味も分からずお参りするの家の決まりでしたが、このことの意味が沖縄で繋がりました。私が沖縄に深く関わることがなければ、上杉茂憲公がどのような人物であったかを知ることはなかったかもしれません。



上杉茂憲公は、上杉謙信、直江兼続、上杉鷹山を輩出した名門、米沢藩上杉家の13代当主。私にとっての嬉しい驚きは、茂憲公が明治初期に2代目の沖縄県令（知事）を務め、当時の交通事情の中、やんばるから離島に至るまで自ら赴いて県民と対話するなど、現場主義、県民主義による善政を敷き、「沖縄から愛された数少ない本土人」と呼ばれる人物だったことです。沖縄の歴史を自分なりに学ぶ過程で、このことを知ったときは本当に感激しました。茂憲公は、沖縄発展のために人材育成と教育が要として学校を設立し、謝花昇、太田朝敷、岸本賀昌、高嶺朝教らを第一回県費留学生として本土に送りました。島民を愛し、当時の劣悪な島民生活の改善をなによりも重視した「沖縄寄り」の政策が、政府方針に反し急進的すぎるとして、明治政府から僅か2年で県令を解任されています。県令を解任された茂憲公は、個人の財産から奨学金として三千元（現在の価値で約1億円程度）を寄付し、沖縄を去りました。

沖縄に骨を埋めるということは、一度お会いした方々と一生涯接点を持ち続けることを意味します。ウチナーンチュ（沖縄人）であれば、お互いがどこの誰か、どんな性格で、何をしようとしている人か、誰でも知っていることですが、沖縄に地縁のない私にとって、私自身が何者かということ、この機にお伝えすることは、礼儀に叶うことではないかと考えるようになりました。

私の父は東京大学農学部博士課程を卒業後、岩手大学農学部、筑波大学農林学系などで教授（農業経済学）を務めた学者で、現在は退官し、筑波大学名誉教授が最後に残った肩書きなのですが、私自身は今まで学者の世界に全く関心を持ったことはありませんでした。その私が、経営者として自分に向き合い、試行錯誤を繰り返し、金融を革新し、実業を突き詰め、市場を解読し、戦略を深く掘下げる過程で、社会と経済と人間に対する知的理解と洞察がいかに重要であるか、そしてまた、経営の現場でそれがいかに軽視されがちであるかを痛感し、アカデミズムと事業現場を繋ぐ役割を果たしたいという気持ちが強くなりました。蛙の子は蛙というか、やはり沖縄で自分の出自を見つめさせられた気がします。

末筆になりましたが、皆様とご家族の増々のご健勝を祈念致しております。那覇市国場の沖縄大学の私の研究室は3号館505号室です。近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

2012年4月1日

トリニティ株式会社 代表取締役社長  
沖縄大学 人文学部国際コミュニケーション学科 准教授

樋口耕太郎

090・1428・9185 (cellular)

[higuchi@okinawa-u.ac.jp](mailto:higuchi@okinawa-u.ac.jp) (e-mail)